

《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

* 科目 No.

2922

科目概要記入欄

1. 開設大学	島根県立大学		開催 方法	☐対面（—————）	
				☐オンライン（同時・録画・資料提示）	
				■その他（未定）	
	正式科目名 副題	地域文化論		配当年次	2・3・4
			受入学年		
学問分野	番号	11	名称	人文科学系 文化・文学	
3. 担当教員名	濱田 恒志				
4. 単位数	2 単位	5. 開講学期	後期集中		
6. 開講期間 曜日・時間	2023 年 2 月 ※調整中 曜日 : ~ :				
7. 基礎知識の有無	2. 「基礎知識を必要としない科目」				
8. 募集人数	5 人	9. 選考方法	書類選考		

10. 科目内容・授業計画	<p>本授業では、古代から現代に至るまで島根県において育まれてきた地域文化について、特に島根県内に伝わるさまざまな文化財を取り上げながら紹介する。</p> <p>【到達目標】本授業の履修を通して、島根に遺る文化財について歴史上の意義を理解することができるようになるとともに、その文化財がわたしたちの社会において、なぜ・どのように重要なのか、自分の言葉で説明することができる。また、地域に眠る文化財の価値を認識し、他者に対して伝えることができる。</p> <p>第1回：ガイダンス 本講義の目的と評価方法について説明のうえ、日本の宗教美術史の基本的な知識を解説する。</p> <p>第2回：飛鳥時代の仏教美術 飛鳥時代の主要作例と山陰地方の同時代作例について解説する。</p> <p>第3回・第4回：奈良時代の仏教美術 奈良時代の主要作例について、特に宗教的役割に焦点を当てながら解説する。また、山陰地方の同時代作例について解説する。</p> <p>第5回・第6回：平安時代前期の仏教美術 平安時代前期における平安京周辺の主要作例と、県内の作例を含めた地方造像の展開について解説する。</p> <p>第7回：平安時代後期の仏教美術 平安時代後期の主要作例と県内に伝わる同時代作例について解説する。</p> <p>第8回：神像彫刻 神像彫刻の造形的特質について、県内の作例を中心に仏像と比較しながら解説する。</p> <p>第9回：鎌倉時代の仏教美術 鎌倉時代の主要作例と県内に伝わる同時代作例について解説する。</p> <p>第10回：南北朝・室町時代の美術 南北朝・室町時代の主要作例と県内に伝わる同時代作例について、宗教美術と他分野の美術を比較しながら解説する。</p> <p>第11回：江戸時代・近代の宗教彫刻 江戸時代・近代の宗教彫刻について、両時代の連続や美術的価値の転換などに焦点を当てて、県内の作例を含めて解説する。</p> <p>第12回・第13回：文化財保護の仕組み 文化財保護法などを題材にしながら、現代社会における文化財保護の目的・方法・制度について学ぶ。</p> <p>第14回・第15回：博物館の機能と役割 博物館法などを題材にしながら、博物館の定義、機能、現代社会において期待される役割を論ずる。</p>		
11. 試験・評価方法	試験（80%）、平常点（20%）		
12. 別途負担費用			
13. その他特記事項	<p>特定の教科書は使用せず、毎回資料を配付する。ただし作品画像は配布しないので、下記参考文献などを参照するとよい。</p> <p>参考文献： 辻惟雄監修『カラー版 日本美術史』美術出版社、増補新装版 2003 年 山本勉『仏像 日本仏像史講義』（別冊太陽）平凡社、2013 年（平凡社新書 2015 年、新版 2020 年）編集委員辻惟雄ほか『日本美術全集』1～20、小学館、2015～2016 年 島根県立古代出雲歴史博物館編『島根の仏像』同館、2017 年 島根県立古代出雲歴史博物館編『島根の神像彫刻』同館、2018 年 島根県文化財愛護協会編『しまねの文化財』島根県文化財所有者連絡協議会、2018 年 伊藤寿朗・森田恒之編『博物館概論』学苑社、1978 年 栗田秀法編『現代博物館学入門』ミネルヴァ書房、2019 年</p>		
14. 社会人受講	科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可	否
	聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	否

※コロナ禍の影響により、対面授業はオンライン（同時・録画・資料）へ変更になる場合があります。